

はれ予報

「はれよ侍」

10

October
2022

「旅に行きたくなる宿」
京都の宿

「郷土探訪」

盛岡

「止まり木でもう一杯」

高橋克典



[特集]

OUTDOOR BEGINNERS

— アウトドアのはじめ方

キャンピングカーで巡る

北海道湖畔旅

密を避けて非日常の時間を過ごす旅の形として近年、多くの人々を魅了するアウトドアレジャー。そんな旅を思い切り楽しむなら、最高の舞台がいい。キャンピングカーで道東の大地を巡りながら屈斜路湖でカヌーを漕いだり、阿寒湖で釣りをしたり。アウトドア好きなら誰もが夢見る、美しき湖畔の旅へ。

吉原 徹 || 文 Text: Toru Yoshinara
山口 大志 || 写真 Photo: Hiroshi Yamaguchi

Camper Trip
in
Hokkaido

標

高430mの藻琴山展望駐車公園から望む屈斜路湖の風景には、道東の自然の魅力がぎゅっと詰まっていた。山々を覆う森の深さ、青く澄みわたる湖の色、のびやかに横たわる大地の広がり……。最高の景色の中、キャンピングカーの窓を開けると、草木の香りをのせた風がするりと吹き抜けていった。ずっと憧れていた旅が、いよいよ始まる……。そんな期待に胸が高鳴った。

ここは、北海道東部に広がる阿寒摩周国立公園。千島火山帯の活動で生み出された阿寒、屈斜路、摩周の3つのカルデラ地形を中心に構成される一帯は、火山や湖、森が織り成す絶景の宝庫。同時にこのエリアは、変化に富んだ自然環境の中で登山やキャンプ、川下り、釣りなどさまざまなアクティビティを楽しめるアウトドアの聖地としても知られている。

自由で快適な旅の相棒

阿寒摩周国立公園を舞台に、アウトドアをどっぴり楽しむ旅。その相棒に選んだのが6人乗りのキャンピングカー「ZiL 520」だ。湖畔巡りの移動手段

「藻琴山展望駐車公園」から望む屈斜路湖。約13万～10万年前の噴火によって生まれた屈斜路湖は日本最大のカルデラ湖だ。

大地に泊まる、自由に遊ぶ
憧れのキャンピングカーライフ



キャンプのワイルド感とホテルのような快適さ&安心感をイイトコドリできるのがキャンピングカーの魅力

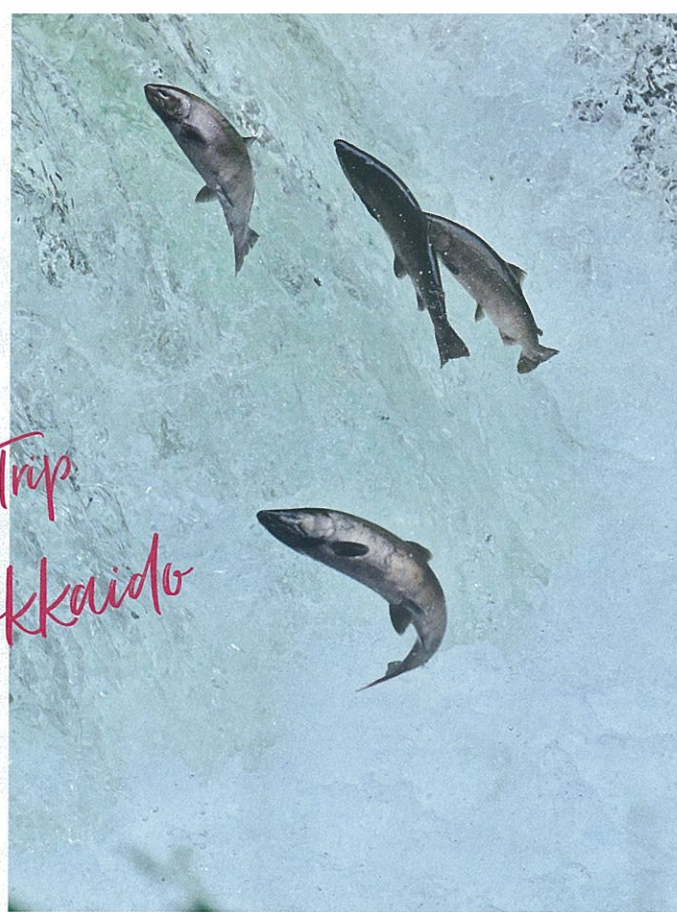


1周30分ほどの森の散策路に囲まれた「RECAMP摩周」は清潔感のあるキャンプ場。コバギボウシ(右)やクルマユリ(左)などの花も咲いていた



上/キャンピングカーの旅なら電源付きの大きなサイトが便利だ。左/車内にはリビングや寝室、トイレ、空調もあり快適そのもの

北海道ノマドレンタカー 女満別店
北海道網走郡大空町女満別本通5-1-6
Tel: 0123-21-8572
<https://nomad-r.jp/>



上/清里町の「さくらの滝」では、産卵のために遡上したサクラマスが高さ約2.5mの滝を越えるジャンプを見せる(6月~8月頃)。下右/1500以上の噴火口から噴煙が上がる「硫黄山」。下左/北海道らしい牧草地も点在



*Camper Trip
in
Hokkaido*

絶景のロードトリップ

女満別から1時間ほど。阿寒摩周国立公園の域内に入ると、窓の外にはダイナミックな絶景が次々と流れてゆく。標高1000mほどの外輪山に囲まれた屈斜路湖、

としてはもちろん、ベッドやキッチン、冷蔵庫、トイレなどを備えた空間は、プライベートなベースキャンプとしても活躍すると見込んでいた。なにより「どこでも寝られて、いつでも動ける」という自由さが、気ままなアウトドア旅にはよく似合う。

女満別市街地にある「北海道ノマドレンタカー 女満別店」で「ZIL520」を借りてから、道道102号などを一路南へ。ジャガイモや小麦などの畑がパッチワークのように広がる丘陵地帯を走っていると、キャンピングカーの車両感覚が体に馴染んでくる。車高や車幅はあるものの、運転席が高く見通しが良いため、思ったよりも運転はしやすい。さらに信号や交通量が少なく、道幅や駐車場が広いことも、快適なドライブを楽しめる要因だろう。北海道ほどキャンピングカーの旅にふさわしい場所はないのだと、あらためて思う。

荒涼とした岩山にもくもくと噴煙が上がる硫黄山、牛がのんびり草を食む広大な牧草地……。思わず息を呑むような景色を巡りながら、まつすぐに道に車を走らせていると、まるでカナダやアラスカの原野を旅しているような気分になる。これほどスケールの大きな自然が日本にもあるなんて……。そんな嬉しい発見とともに、ゴキゲンなロードトリップの時間は過ぎていった。

太陽が西の空に傾く頃には、スーパーで食材を買い込んでから、キャンピングカーで乗り入れてできる「RECAMP摩周」にチェックイン。キャンピングカーから必要な荷物だけを取り出し、キンキンに冷えたビールを飲みながら火を熾す。やがて日は沈み、空に星が瞬き始める。キャンプサイトの設営が最小限で済む分、自然の中でゆっくりとした時間を過ごせることも、キャンピングカーの旅の魅力なのだと思ふ。

「明日はどこで寝て、何をしようか」。空に舞い上がる火の粉を眺めながら、そんな会話を交わす。道東の大地を気の向くままに移動し、美しい自然と向き合う。そんな旅に身を置く喜びが、じわりと胸に広がってゆく。